

## TPP 通信 NO.4:

### < TPP 交渉参加に向けての関心事項 >

#### ・野田首相の訪米

ゴールデンウィーク中の今月 29 日から、野田首相の訪米が予定されている。30 日には、ワシントンで日米首脳会談が行われ、首相が交渉参加を正式に表明するか否かが注目を集めている。

交渉参加に反対の団体らは、訪米時に交渉参加を表明しないよう各地で反対集会を開いており、交渉参加に賛成の方は、特に経済の観点から A S I A の成長を取り組むチャンスと捉え、交渉参加の表明に期待している。

#### ・訪米時の政府方針（報道から）

野田首相は、4 月 19 日の米紙ワシントン・ポストとのインタビューの中で、TPP への交渉参加について「まだ国論は分かれている状況だ。国民的議論が煮詰まっていく段階で判断したい」と述べ、30 日のオバマ大統領との会談では正式な参加表明まで踏み込まない考えを示した。

：理由としては

- 1) 米国との事前協議が難航していること
- 2) 民主党内に根強い反対論があること
- 3) 目下最優先課題である「消費増税」反対派と「TPP」反対派が重なっていること

等とされており、「訪米前や訪米時に正式な参加表明をすれば、政権基盤が揺らぎかねないと判断した。」としている。

## TPP交渉参加に向けての懸念事項

### ・ 牛肉の規制緩和

米農務省は24日、カリフォルニア州で乳牛1頭がBSEに感染していることが確認されたと発表した。

日本側に米国産牛肉の輸入規制緩和を強く求め、牛肉を「交渉カード」に使おうとするオバマ政権には痛手だ。TPPをめぐる日本との協議にも逆風となりそうだ。

日本は現在、米国産牛肉の輸入制限を月齢20ヶ月以下から30ヶ月以下に引き下げる案をまとめている。今回の事例が正式に食品安全委員会に報告されるまで数週間は掛かると見られ、少なくともこの間は事前協議を前に進めにくい状況になるだろうと思われる。

## 今後の見通し

TPP交渉を進める9カ国のうち6カ国からの承認を得たとはいえ、残り3カ国との事前協議は進んでいない状況。米国も基本的には日本の交渉参加を歓迎する立場だが、ルール作りへの参加の余地がどのくらい残るかは残念ながら分からない。国内調整の遅れも見られる中、日本がどう外交し判断していくのかが注目される。

4/29～	: 野田首相の訪米
5/18～19	: G8サミット（キャンプデービッド、米国）
初夏	: 日本の交渉参加の目標時期
11月	: 米国大統領選
年内	: 交渉国による実質合意の目標時期

以上